

目標かかげ闘い強化

「物価値上げ反対」など

三池炭鉱主婦会は、去月二十八日第二十二回定期大会を開き、新年度の行動方針を決定、新しい年の闘いに向かってスタートした。

炭婦協のうた、
の、第一節
×
貧しさからの解放
を
さげんでママの炭
労と
北の果てから南か
ら
結んだかたい団結
は
ママの力の炭婦協

「組織の強化」
「働く婦人の権利獲得」
「子どものしあわせと、民主教
育を守る闘い」
「平和を守る運動」

「敬老会などの行事の開催」
行動方針によれば、あくまで全
国最低賃金六万円(日額二千四百
円)、パート時間当り二百円を目
標に労働条件、賃金の引き上げを
改悪「靖国神社法」優先保護
折じすにはいられない。

主婦会定期大会

このうたを地を地いいたのが、ほかならぬ三池炭鉱主婦会。

三池主婦会は去る一年も、これまで同様「生命を守るために」「子どもを守るために」「物価値上げ反対のために」「大幅賃上げのために」「平和を守るために」などの「運動の統一を守るため」に、活動してきた。

一九七四年度行動方針が述べられているように、主婦会員も「生命」「子ども」「生活を守るため」に、ますます安上がりの労働力として働かざるを得ない。「九割近くが働きにでかけて」「その状態のごとく、主婦会活動にも年ごとに困難さが加わってきた。それを引きつらぬけながら、三池主婦会は歩み続けてきた。

当然ながら同主婦会の運動は前年度のそれを継承、いっそう団結を誓い合いながら、つづけられて行くに違いない。

第二十二回定期大会で決定したその行動方針は、「具体的闘いの目標」をつぎのようにかかげている。

「生命を守る闘い」
「物価値上げ反対運動」



原爆に被災した広島の子ども

めきすとし、教育の反動化に反対し、あくまで「すべての国民は平等に教育を受ける権利を有する」として、教組と手を取り合っ、学問の自由、民主教育を守るために闘って行く、という。

物価値上げ反対は当然のことながら、同時に生協組のコープ商品の利用を妨げ、有害食品の追放も積極的に取り組んで行くこととし、結の力でそれらの困難を乗り越えながら、いっそう前進することを祈らずにはいられない。

「雇用保険法」などに反対する。来年の統一地方選挙の勝利をめざして、いっさら準備を取り組み、母娘大会、原水禁運動などに積極的に参加することで平和を守る努力を積み重ねて行く、という。

その活動は、これまでも「新聞、赤旗、七月三十日の記事」は、当時の恐るべきことをこのようにいきいきと伝えていた。核保有国はますます多くなり、核実験はもうついに始まっている。いまわが国では、田中自民政府の手で、一歩一歩再度不気味な道に押しやられて行く気配を感じさせている。

このなかで迎える、被爆二十九周年原水禁禁止世界大会(原水禁禁止日本国民会議主催。代表者「森滝市郎教授」)。右の記事を思うにつけても、いまだ一度原水禁禁止運動のもつ意義の重さを、考えなおすべきではないか。

地球人類が破滅してしまつてからは、すべてはおそいのだ。



非常に残念でなま、せんが、この大事な欄に応募がな、編集者としてとてもお喜び、思いに包まれています。

この欄は、全国の労働組合の新聞にも稀な、独特の欄としての伝統をもっています。労働者家族の主婦の生活体験と意見を、こころも着せず自由に交流し、学び合うことのできる欄だからです。

平和の問題、暮らしの問題、あるいは子どもの問題など、ときには怒りとなり、ときには誇りとなり、語りかけるこの欄。消えてゆくことのできる欄だからです。

原爆から発生した爆風と熱線、による死亡者は、同年末までに約九十万人が被害をうけました。原爆兵器——熱核兵器で、広島、長くにまかせていてよいものでしょうか。

天をひき裂いた閃光

30数万人の命が消えたあの日

近づく一原水禁大会

あの日……。いまから三十九年前の一九四五年(昭和二十年)八月六日午前八時十五分十七秒。広島市上空に飛来したアメリカのB29爆撃機から投下された一発の原子爆弾は、一瞬にして全市を死の街に変えてしまいました。

一発で従来の火薬(TNT)二万トンの威力をもつこの、新型爆弾、の爆発で、天を裂く閃光

破滅してからでは遅い

抗外施設

おどろかされたのは、医療施設の完備である。

いっような電気治療設備からベッド(寝ている人は一人もいない)、医師(すべての科がある)、看護婦、それに太陽灯などの素練切れを見つけてさえ、電氣による実験が行われ、すでに実用化されている。

現場が、わが国とは比較にならないほど安全で、月々わずかなしかな診療・治療はしないのに。

二十五メートルプール(冬は温水プールとなる)。壁面のある、大きくきれいな食堂。坑内に働く人は、ここから弁当をもつてさがる。

職場婦人も数多く見かけたが比較的力のいらいな信守手などの作業をやっている。油に汚れた衣服を着ているが、オシヤンで、きれいな石のイヤリングをつけていた人が印象に残っている。

マキエフカ研究所
炭鉱労働の、保安・安全のための専門研究機関。
千二百名の学者・技術者。一般業者が働いていて、炭鉱の現場で起きるさまざまな問題について研究を重ねている。

(1)ワイヤロープの機質の安全・強度テスト

堅坑や斜坑で使用する大きなワイヤロープから、小さな針金に至るまで、その強度をはかるために、五十メートルほどの研究室内一杯に大小の機械を据えて同時に、ばってテストをしている。

(2)堅坑・斜坑の安全のためえるガス湧出がある場合、各個人のキャップランプが点滅する技術の開発に成功している。われわれ日本の炭鉱労働者にとり、垂延おくあたわることである。

機質は、ステンレス・鉄・合

成樹脂に至るまで、圧迫や打撃にどの程度耐えるかという実験を行っている。

特に、直径十センチもあるワイヤロープのなかの、一ミリほどの素練切れを見つけてさえ、電氣による実験が行われ、すでに実用化されている。

現場が、わが国とは比較にならないほど安全で、月々わずかなしかな診療・治療はしないのに。

二十五メートルプール(冬は温水プールとなる)。壁面のある、大きくきれいな食堂。坑内に働く人は、ここから弁当をもつてさがる。

職場婦人も数多く見かけたが比較的力のいらいな信守手などの作業をやっている。油に汚れた衣服を着ているが、オシヤンで、きれいな石のイヤリングをつけていた人が印象に残っている。

マキエフカ研究所
炭鉱労働の、保安・安全のための専門研究機関。
千二百名の学者・技術者。一般業者が働いていて、炭鉱の現場で起きるさまざまな問題について研究を重ねている。

(1)ワイヤロープの機質の安全・強度テスト

堅坑や斜坑で使用する大きなワイヤロープから、小さな針金に至るまで、その強度をはかるために、五十メートルほどの研究室内一杯に大小の機械を据えて同時に、ばってテストをしている。

(2)堅坑・斜坑の安全のためえるガス湧出がある場合、各個人のキャップランプが点滅する技術の開発に成功している。われわれ日本の炭鉱労働者にとり、垂延おくあたわることである。

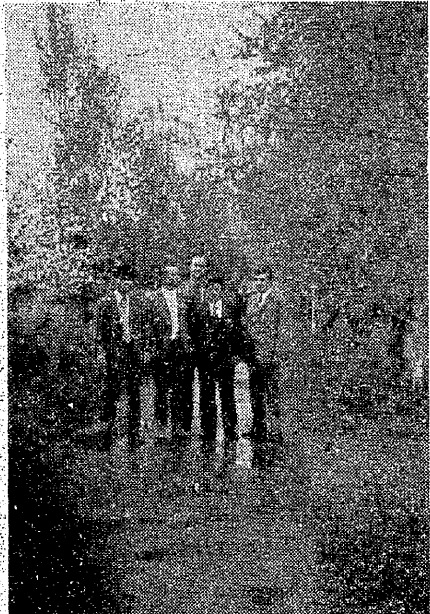
見てきたソ連邦

大事にされるいのち

書記次長 蒲池哲夫

三池ではそのため四百五十八名の尊い命が奪われ、八百名にのぼるCO患者がつくり出された。(1)と(2)の研究や対策が、日本の炭鉱でも採用されていたら、絶対に起きなかった災害である。

メタンガス探知研究
探知方法は、ソビエトでも日本の炭鉱でも同様である。だがソビエトでは、二%で警報が鳴り退避するようになっていて、日本では一・五%と基準は低い。でも基準が低くても、法が死文に等しい資本主義体制のなかでは問題にならない。警報が鳴っても、作業を強要する資本主義の国だから、ガス爆発となつて炭鉱労働者の命が奪われているのである。



ソ連の町は森林公園に包まれている

(以下次号へ)